

9月は世界アルツハイマー月間

理解を深めよう 認知症のこと

9月は「世界アルツハイマー月間」、9月21日は「世界アルツハイマーデー」です。市は認知症への理解を深めるため、関係機関や市内店舗などと協働してさまざまな事業を行います。詳細は、市ホームページをご覧ください。



案内ページ

えびなオレンジフェス

認知症への理解を深め、支援の輪を広げるイベントです。講演会のほか、フルートとピアノの演奏、認知症の人とその家族や医療福祉関係者で結成した音楽隊による演奏、健康や介護の体験・相談コーナーなどがあります。講演会は事前申し込み制です。



講演会「認知症の基礎知識」

自身や家族が認知症になった時も、心穏やかに暮らすための正しい知識を学びます。

🕒13時～14時定先着200人📍尾崎 聡氏(えびな脳神経クリニック理事長)🆓無料📅9月2日(月)から、電話で認知症疾患医療センター「えびな脳神経クリニック」(☎046・236・2188)へ。二次元コードからも可



申し込みページ

認知症予防ランチ

認知症に効果的な食材を使ったランチメニューを市内13店舗(下表)で期間限定販売します。メニューや価格は都合により変更する場合があります。提供数に限りがあります。営業日・営業時間は店舗ごとに異なります。📅9月1日(日)～30日(月)

メニュー名	店名	住所
じゃがいもゴロっとカレーぱん ビーフカレーぱん	Pain・de・KOTANICCHI	東柏ヶ谷2-12-41 1階
桜蔵のチキンカレー	カフェ はみんぐ	上今泉6-11-20(障害者支援センターあきば内)
マタカレー	Matacurry	上郷1-23-51
サバのペペロンチーニ	ベンガラカフェ	中央3-2-17 1階
Greenグリーンカレー チキンスライスカレー	キッチン BOOZE	中央3-2-38テイクワンA号館 1階・2階
ホットカレーサンド さば味噌煮定食	ともしびショップ ぱれっと	勝瀬175-1(市役所内)
おろしそば	そば処たかはし	さつき町1-22
鮎定食/アジフライ定食	ひろみ鮎	河原口1-1-5
焼きカレーパン	ミュールハイム	国分寺台2-5-16
TSUKI膳/TSUKI弁当	TSUKI CAFE	国分寺台2-12-2
カレーパン 枝豆ベーコンフランス	はあとすまいる	今里2-16-1エスポワール101
ポークビーンズと しらすのサラダセット	Café LaLaLa	社家1-4-43
夏のヘルシーランチセット	タヴェルナ イル ロカール	中野3-16-20

認知症図書フェア

市内の書店や図書館で、認知症に関連する図書を集めたコーナーを設けます。実施期間は店舗などにより異なります。

📍くまざわ書店さがみ野店(東柏ヶ谷3-3-15相鉄ライフ2階)/三省堂書店海老名店(中央1-1-1ビナウォーク1番館4階)/未来屋書店海老名店(中央2-4-1イオン海老名店3階)/有隣堂ららぽーと海老名店(扇町13-1ららぽーと海老名4階)/中央図書館/有馬図書館



みんなで支える認知症

認知症は「何も分からなくなる状態」ではなく、「記憶力や判断力が低下する」「感情コントロールが難しくなる」などの症状が日常生活に支障をきたす状態を指します。認知症の人へのきつい口調や不親切な態度は、相手の自尊心を傷つける場合があります。認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らすためには、周囲の人の支援が必要です。正しい知識を身に付け、理解を深めましょう。

実践しよう！「3つの「な」」

- 1 驚かせない
- 2 急がせない
- 3 自尊心を傷つけない

認知症だからといってこれまでの付き合いや関係性を変える必要はありません。しかし、認知症の人には「混乱」と「不安」が強い人が多いため、その人が置かれた状況をよく理解し、温かく見守る姿勢も必要です。3つの「ない」を実践した関わり方がとても大切になります。

受講しよう！ 安心の目印 「オレンジリング」



市は認知症を理解し、サポートできる人の広がりを目指して、「認知症サポーター養成講座」を開催しています。認知症サポーターは「なにか特別なことをする人」ではありません。まずは正しく知ること、他人事ではないと考えることから役割が始まります。

同講座は年2回の開催と、自治会や企業などからの依頼に応じた出前講座も行っています。認知症について正しく理解する支援者が多くなると、認知症の人やその家族がより安心して暮らせる環境も広がります。認知症サポーターの活動を始めてみましょう。講座修了者には認知症サポーターの目印「オレンジリング」と「オレンジカード」を進呈します。



案内ページ

チームオレンジが発足！

認知症の初期段階から地域で支援を行うために国が制定した「認知症施策推進大綱」に基づき、ことし4月に市内初の「チームオレンジ」が発足しました。チームオレンジは、認知症サポーターを中心に構成し、地域で暮らす認知症の人や家族の支援を行います。



認知症の母と同居する大崎さんに聞きました

気を使わないから笑顔でいられる

母は元々1人暮らしをしていました。弟の妻が「最近、様子がおかしい」と連絡してくれたので、認知症に早く気付くことができました。覚悟していたので大きな動揺はなかったです。同居を決意したのは、電気ポットをガスコンロにかけた時。火事の危険を感じてね。

症状は少しずつ進行しているなと肌で感じています。最近では数秒後に忘れることもあってイライラしてしまうこともあります。「あんた誰？」と言われる日があるかもしれないけど、認知症は病気だからね。特別に気を使ったりすることもないし、自分の時間も大切にしています。体を動かしたり飲みに行ったりもするから、息抜きにはなっていますね。

近所の人も理解してくれているから、一緒に散歩に行くと声をかけてくれるので安心です。母はもうすぐ94歳になるので、100歳まで生きてほしいですね。本人が希望するので、家族としてもできる限り家で過ごしていきたいです。



「一緒に生活できて楽しい。」と笑顔いっぱい話す大崎さん親子